

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区②ライフ分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区(神奈川県)	4.1	4 進捗度 ・特区発ロボットの商品化状況 120% ・実証実験等の実施件数 141% ・県の企業誘致施策等を活用したロボット関連企業の件数 58% ・生活支援ロボットに関する特区の取組に参加する県内中小企業の数 73% 等	3.9 規制の特例等 ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法) 等 地域独自の取組 ・「セレクト神奈川NEXT」等による企業誘致の促進等	4.2	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援ロボットの体験参加者数がコロナ下でも伸びていることが評価できる。コロナ下でのロボットに対する人々の見方の変化などが新規開発のアイデアにもなりうると考えられる。 生活支援ロボットを導入する施設数は増えておりニーズの高さに対して、企業の参入がやや低調であることに対して、他業種の企業、ベンチャー企業など参入可能性を広げる活動を引き続き続けて頂きたい。 生活支援ロボットの導入施設数や特区発ロボットの商品化が着実に増加している点が評価できる。その誘導・促進のための県によるきめ細かな支援も継続して実施されている点も評価したい。 多様な機会をとらえ、事業費を獲得してロボットの開発・普及にとりくみ、実績を上げている点が評価できる。 少子高齢化を踏まえると、生活支援ロボットの重要性がますます高まることが予測される中で高い進捗度を達成していること評価できる。 規制の特例措置の活用や地域独自の取組が多様であり、実績につながっている点が評価できる。生活支援ロボットの具体的な機能などについての情報共有があるとさらに良くなる。 県内企業による特区の取組への参加や施策の活用が一層広がるよう、そのための新たな工夫／取組にも期待したい。